



Title	編集後記 欄外
Author(s)	
Citation	臨床哲学のメチエ. 2012, 18, p. 40-40
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/23019">https://hdl.handle.net/11094/23019</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

年度をまたいで慌ただしい編集となっていました。無事に復刊後2号目を刊行することができました。今回は阪大のみならず、ALS 合宿で一緒にした立正大学や湘南工科大学の方にもタイトなスケジュールのなか執筆のご協力をいただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。私事ですが、春から埼玉で言語聴覚士になるため修行中です。「現場で／と考える」ことをじっくり考えながら学んでいきたいなと思います。

(楠本瑤子)



足早に過ぎ去ろうとする日常の隙間に、創造的なスペースが垣間見えることがあります。感覚的にしか語れませんが、それはほんの一瞬の出来事で、あっという間に消え去ってしまうものなのかも知れません。私はそのスペースが生まれた記録を書き留めておきたい。本誌がその一助となることを切望しています。

(辻明典)

無事、復刊2号目を出すことが出来ました。年度末の忙しい時期に校正作業にご協力いただいた執筆者のみなさまに、この場を借りてお礼申し上げます。今後のメチエでも、Web と連携する試みなど、さまざまな形で臨床哲学の活動の発信とアーカイブの方法を模索していきたいと思っています。

(きむふあよん)

今回の『メチエ』は臨床哲学研究室に属さない方にも執筆・参加していただくことができました。「臨床の知のネットワークのために」ささやかにでも貢献できていれば、と祈ります。一人で書くことだけでなく、多くの人数で話し合ったものを文字にすることにも挑戦してみました。臨床哲学の文体、そして臨床哲学のメディアについての実験の場所（あるいは「遊び場」）として、今後も冒険を続けていくつもりです。ご期待ください。

(川崎唯史)